

令和4年度(2022年度) 自己評価結果公表シート

学校法人清明学園

幼保連携型認定こども園もえれのもり

1. 本園の教育・保育目標

「目指す子どもの姿」

- ・たくましく健康な心と体を持つ子ども
- ・自分で考えて、意欲的に行動する子ども
- ・思いやりのある子ども
- ・気持ちの良いあいさつができる子ども

【幼児部】

生活の中で様々な気持ちを味わい、自分の心と向き合い、満足いくまで十分に挑戦する。探求心や忍耐力が生まれ、集中力や創造力、仲間との協同性や、思いやりといった生活に必要な術を身につけていく。時には不快・不便・不足なども体験しながら、思慮深く物事を捉えていくことができるようになる。

【乳児部】

初めて家庭や親から離れて過ごす時間になる園生活の中で生活リズムを大切に、保育教諭との信頼関係を深めながら安心して過ごせるようになる。

【職員目標】

人との関わりが中心の職責として、チームで仕事をしていく保育教諭同士がお互いの動きを見て助け合いながら仕事を進める。お互いの強みを生かせる職場環境を目指す。また、身に付けたい意見の出し方として専門知識に基づいて保育観を共有し、相手の気持ちも受容しながら豊かな多様性を人的環境と捉える。また、園庭整備や室内環境にも力を入れ、子どもたちの過ごす空間を居心地の良いものとする。保護者の思いを聞くことを大切に、共育という観点で日ごろから様々な話を共有し、保護者とも心を通わせ、信頼関係を築く。

2. 今年度の重点目標

『子ども中心・遊び中心の子ども城』として園内外の環境の中で、自分や自分に関わる周囲の人を信頼し、どんなことにも挑戦する意欲をもつことができる子ども、自分で考え、判断し、責任をもって行動する子どもを育む

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
保護者への対応及び保育方針への理解と啓発	クラウド環境やお手紙などで子どもの育ちを伝えることに力を入れた。発信頻度はこれからもよりよく改善していく。幼児部は懇談会を年に2回行い、保護者との対面で保育へ向かう担任の思いや子どもたちの育ちを共有する機会とした。個人面談等で保護者の困り感を感じた時は、クラス担任から保護者へ丁寧にに関わり、状況の共有を心がけたが、園全体としてもっと保護者の気持ちに寄り添って話を共有し信頼関係を築く必要があったと反省が残ったため、改善していく。
子どもへのかかわりと保育計画	長時間過ごす子どもを含めて気持ちの揺らぎを感じていくことでありのままを受け止められるように配慮した。保育教諭が共感し、丁寧に関わることで、子どもたちが自分はこのままでいいのだと認められ、まるごと愛されている安心感や周囲の人への親しみや共感、思いやりの気持ち、自己表現を豊かにする姿が見られるようになったが、このことはすべての育ちのベースとして今後も大切にしていきたい。
保育の質の向上のための園内研修及び研究の充実	年3回程度、子どもとの関わりをテーマに園内研究を行った。保育教諭それぞれの思いを伝え合い、乳幼の垣根を越えて保育観を共有する良い機会となった。しかし、環境づくりの最中で、時に子どもたちの遊びが集中して継続されていないと感じる様子もあったため、今後はその原因を追究し、遊びの継続がなされるような環境づくりに力を入れる。日々の保育は子ども自身の積み重ねや思考力、想像の高まりなど目に見えない育ちを大切にしながら保育を進めることに力を入れた。このことが保育の質の向上につながると考えられるため、今後も継続して力を入れていきたい。

4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

園内外の物的・時間的・空間的環境作りは職員全員が関わり合い、常によく話し、子どもたちにとって居心地の良い遊び込める環境を試行錯誤した。今後は、人的環境として子どもたちとの暮らしを創造しながら自身も保育を楽しみ、育ちを喜ぶことができる環境を作っていくことが大切と考えている。次年度は総務やリーダーを中心に職員同士子どもの育ちを語り、環境リーダーといった中間層の保育教諭が橋渡しとなり、乳児も幼児もすべての職員が連携し合うことで0歳～5歳児の育ちをより段差なく繋げていくことを目指したい。